

55t
あきんど
攻める商人！ 繋がる商人！
あきんど

●第148回(平成28年度第1回)●

中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成28年 4月～ 6月・報告

平成28年 7月～ 9月・予想



次の100年も
・・・ここに商工会

栃木県商工会連合会

目次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況D I 推移を比較・・・図1	
県内産業別の業況D I 推移を比較・・・図2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・・・図3
売上額(加工高)の状況	・・・図4
採算(経常利益)の状況	・・・図5
設備投資の状況	・・・図6
経営上の問題点の状況	・・・図7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・・・図8
売上額(完成工事高)の状況	・・・図9
採算(経常利益)の状況	・・・図10
設備投資の状況	・・・図11
経営上の問題点の状況	・・・図12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・・・図13
売上額の状況	・・・図14
採算(経常利益)の状況	・・・図15
設備投資の状況	・・・図16
経営上の問題点の状況	・・・図17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・・・図18
売上額(収入高)の状況	・・・図19
採算(経常利益)の状況	・・・図20
設備投資の状況	・・・図21
経営上の問題点の状況	・・・図22
6. 調査対象事業所の内容	16

○D I 指数とは

本文中やグラフ中に登場するD I 値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がり示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

〔 調 査 要 領 〕

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況等や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

矢板市・上三川町・うつのみや市・芳賀町・壬生町
野木町・小山市美田・那珂川町・黒羽・湯津上

○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数：149企業（回答率99.3%）

○調査時点

平成28年6月1日

○調査対象期間

平成28年4月～6月期の実績及び、平成28年7月～9月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

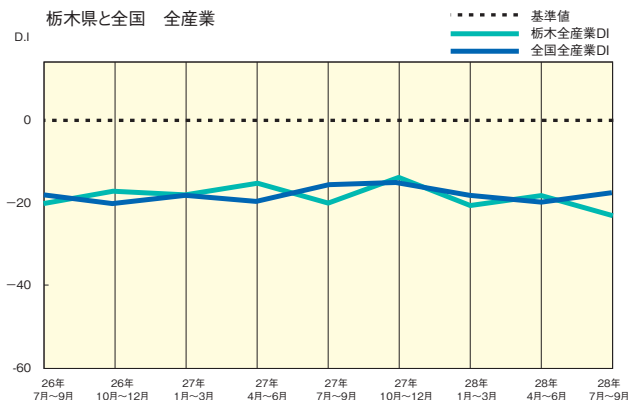
○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	32	21.5
建 設 業	19	12.8
小 売 業	37	24.8
サ ー ビ ス 業	61	40.9
合 計	149	100.0

1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「県内・全国とも横這い傾向、来期の県内は悪化を予想」
(前期比) 図 1



今期の業況を全国で見ると、D I 値は1.4ポイント（-18.1ポイント→-19.5ポイント）の悪化となったが、来期の見通しは2.2ポイントの改善を予想している。

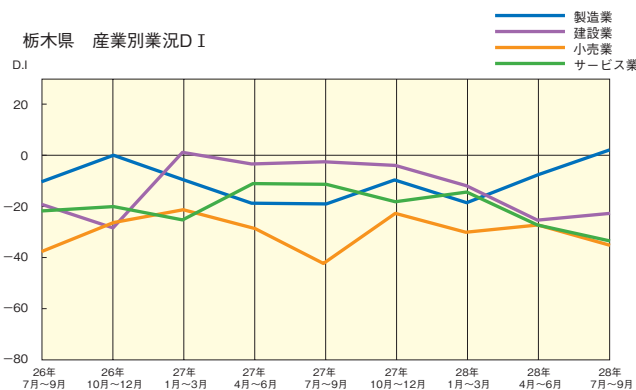
栃木県内の業況D I は、2.4ポイント（-20.9ポイント→-18.5ポイント）改善したが、来期予想は、4.1ポイント（-18.5ポイント→-22.6ポイント）の悪化を予想している。

全国・県内とも僅かながら回復基調が続いてきたが、今期は横這いとなっている。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。それぞれの調査時点は同日である。

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「建設業・サービス業の大幅悪化、来期も悪化が続く予想」
(前期比) 図 2



「製造業」が+10.3ポイント（-17.7ポイント→-7.4ポイント）、「小売業」が+5.3ポイント（-31.4ポイント→-26.1ポイント）と、前期より高い水準となっている。

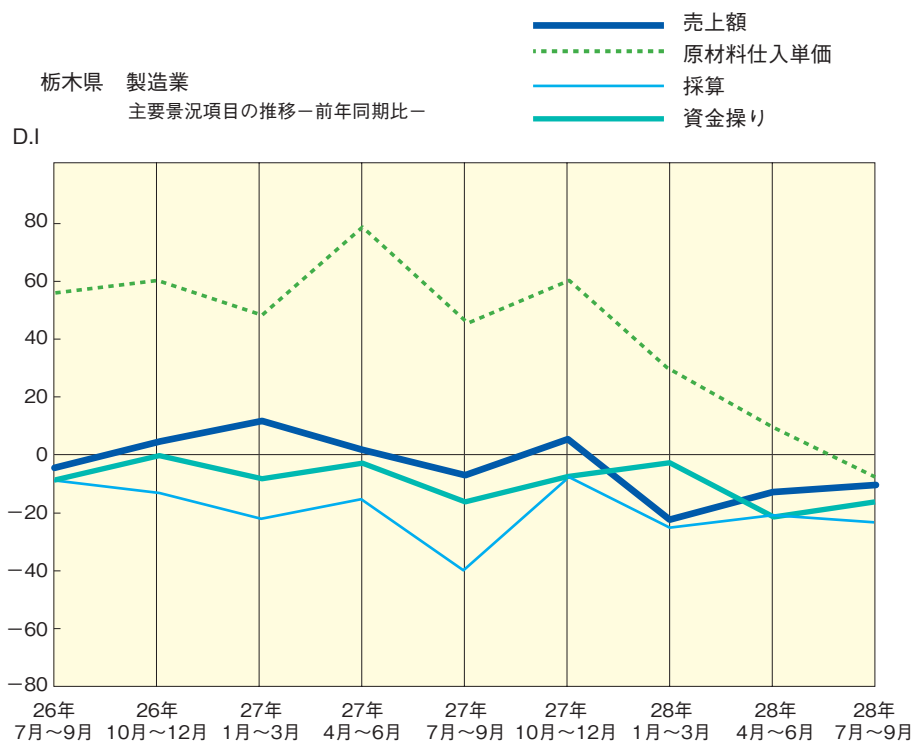
「建設業」「サービス業」については、大幅に悪化し、また、「サービス業」は来期も悪化が続く予想となっている。

2. 製造業の景況

－主要景況項目の推移－

「資金繰りが大幅悪化、来期も低い水準が維持される予想」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



今期は、前期に比べて「売上額」10.1ポイント（-23.4ポイント→-13.3ポイント）の増加を筆頭に、「採算」6.7ポイント（-26.7ポイント→-20.0ポイント）改善した。

来期は「売上額」が3.3ポイント増加するものの、「採算」は3.4ポイントの悪化を予想している。

「資金繰り」は、16.6ポイント（-3.4ポイント→-20.0ポイント）の悪化となったが、来期は3.4ポイント（-20.0ポイント→-16.6ポイント）の改善を予想している。

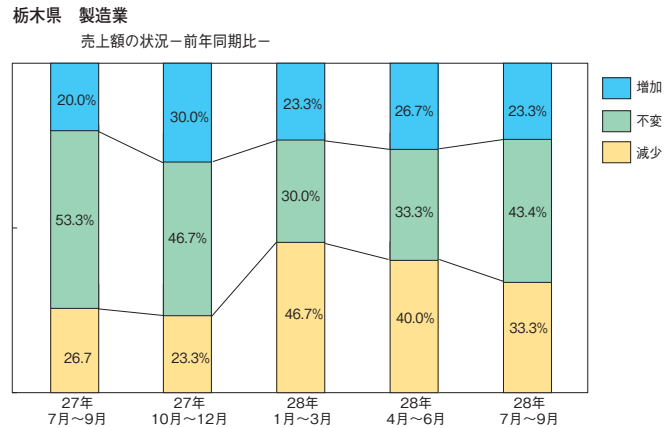
また、「原材料仕入単価」は、21.9ポイント（29.6ポイント→7.7ポイント）の大幅な下降となっているが、来期の予想でも、15.4ポイント（7.7ポイント→-7.7ポイント）の下降を予想している。

－売上額(加工高)－

今期D I 値の内訳は、増加企業が3.4% (23.3%→26.7%) 増加し、減少企業が6.7% (46.7%→40.0%) 減少したため、D I 値は-13.3ポイントと、前期と比べ10.1ポイントの上昇となった。

来期の見通しは、売上増加と予想する企業が3.4% (26.7%→23.3%) 減少するが、減少を予想する企業も6.7% (40.0%→33.3%) 減少するため、D I 値は-10.0ポイントと改善傾向を維持すると予想している。

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

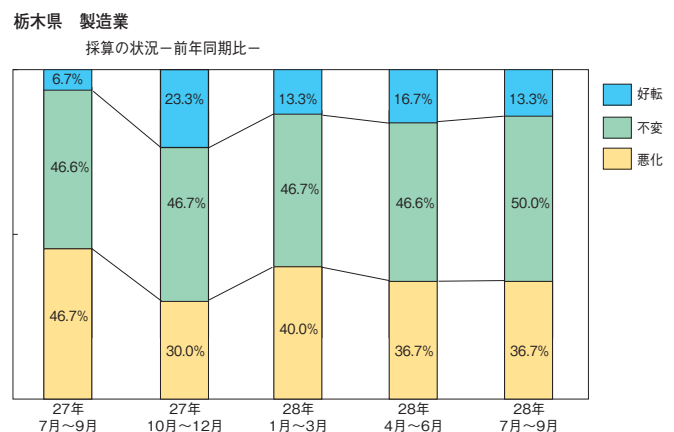


－採算(経常利益)－

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が3.4%増加し、悪化企業が3.3%減少した為、D I 値は-20.0ポイントで、前期より6.7ポイントの好転となった。

来期の見通しは、不変を予想する企業が3.4%増加し、好転を予想する企業が3.4%減少するため、D I 値は-23.4ポイントとなり、3.4ポイントの悪化を予想している。

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

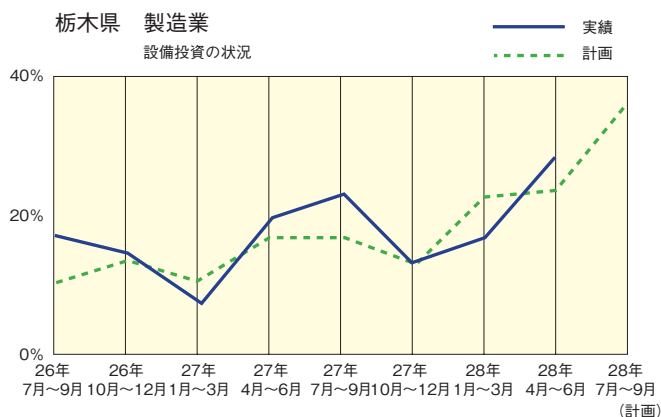


－設備投資の状況－

設備投資の状況 図 6

今期の設備投資の実績状況は、計画していた企業割合が24.1%に対し、実績は28.6%と計画を上回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は今期よりも10.4%増の34.5%となり、設備投資への意識が高まっている。

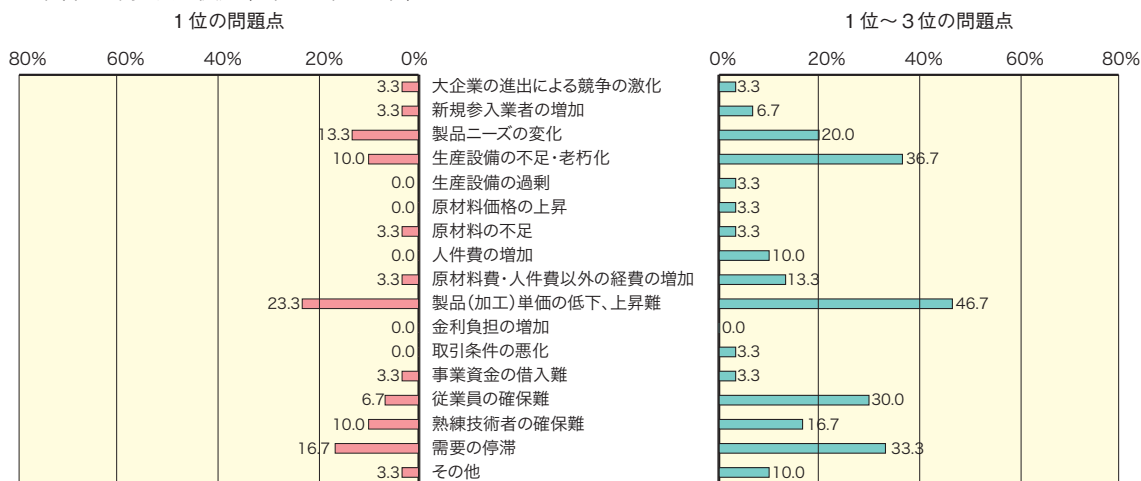


－経営上の問題点－

経営上の問題点の状況 図 7

栃木県 製造業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



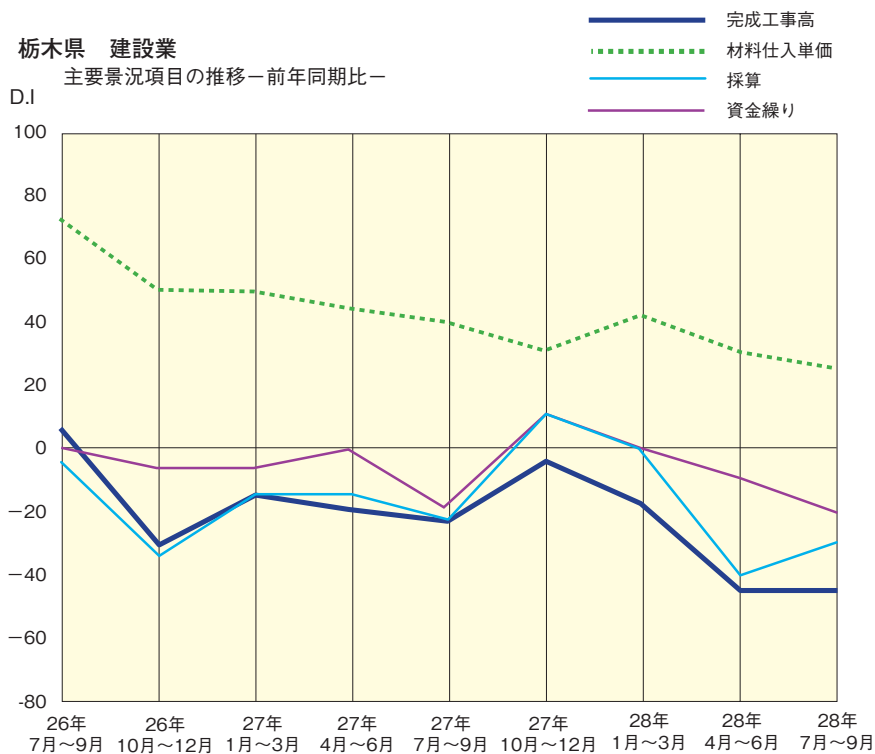
1位の問題点を見ると、「製品（加工）単価の低下、上昇難」（23.3%）が最も多く、次いで「需要の停滞」（16.7%）「製品ニーズの変化」（13.3%）、となっている。1位～3位の問題点では、前述に加えて「生産設備の不足・老朽化」、「従業員の確保難」が挙げられており、課題が多いことを示した。

3. 建設業の景況

－主要景況項目の推移－

「各項目とも大幅に悪化、来期もさらに低下を予想」

建設業 主要項目の推移（前年同期比） 図8



「売上額（完成工事高）」は前年比 -25.9° ポイント（ $-19.1\% \rightarrow -45.0\%$ ）減少し、「採算」は、前期比 -40.0° ポイント（ 0.0° ポイント $\rightarrow -40.0^\circ$ ポイント）、「資金繰り」は、前期比 -10.0° ポイント（ 0.0° ポイント $\rightarrow -10.0^\circ$ ポイント）と、各項目で大幅な悪化となった。

「材料仕入単価」は、前期比 -12.8° ポイント（ 42.8° ポイント $\rightarrow 30.0^\circ$ ポイント）と大幅に下降した。

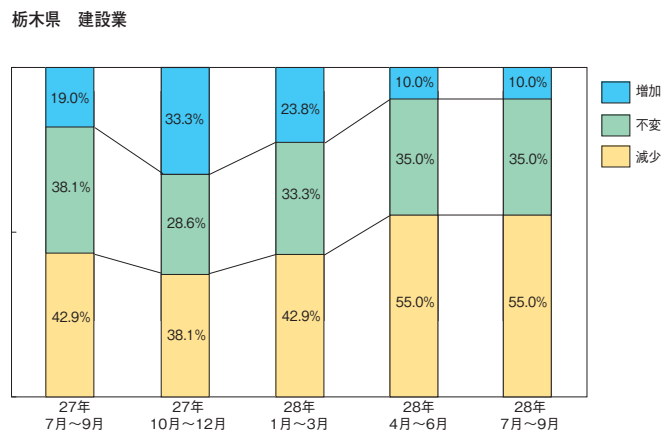
来期の見通しは、「売上額（完成工事高）」は横這いを予想しているが、「採算」については前期比 $+10.0^\circ$ ポイント（ -40.0° ポイント $\rightarrow -30.0^\circ$ ポイント）となり、改善すると予想している。

「資金繰り」は今期さらに 10.0° ポイントの悪化（ -10.0° ポイント $\rightarrow -20.0^\circ$ ポイント）を予想しており、回復する兆しが見られない。

－売上額(完成工事高)－

売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、増加企業が13.8% (23.8%→10.0%) 減少し、減少企業が12.1% (42.9%→55.0%) 増加したため、D I 値は-45.0ポイントと、前期に比べ、25.9ポイント悪化した。

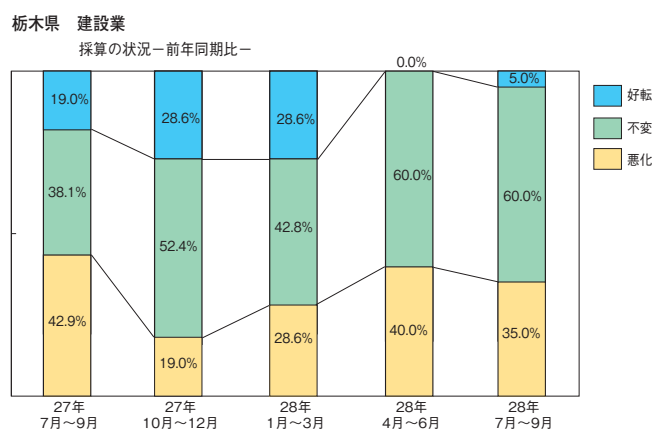


来期の見通しでは、増加を予想する企業が10.0%、減少を予想する企業が55.0%であることから、今期同様、低下傾向が続くと予想している。

－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期は、好転企業が28.6%(28.6%→0.0%)減少し、悪化企業が11.4% (28.6%→40.0%) 増加したため、D I 値は-40.0ポイントとなった。



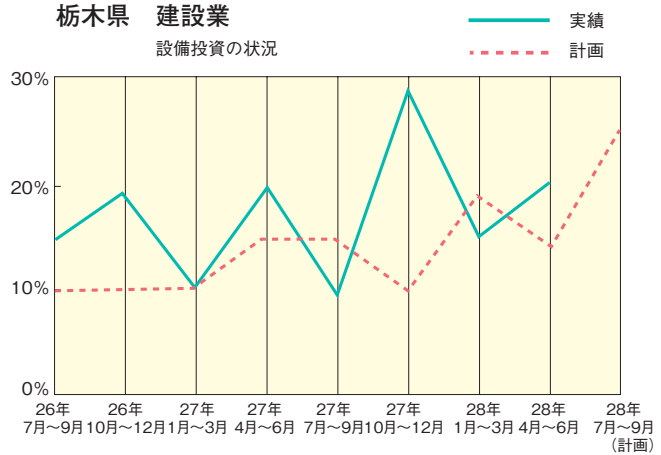
来期の見通しは、好転企業が5.0% (0.0%→5.0%) 増加し、悪化企業が5.0% (40.0%→35.0%) 減少するため、D I 値は-30.0ポイントとなり、10.0ポイントの増加を予想している。

－設備投資の状況－

設備投資の状況 図11

今期の設備投資の状況は、計画していた企業が14.3%に対して、実績は21.1%と計画を上回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は、25.0%と今期計画より10.7%の大幅増加を予想している。

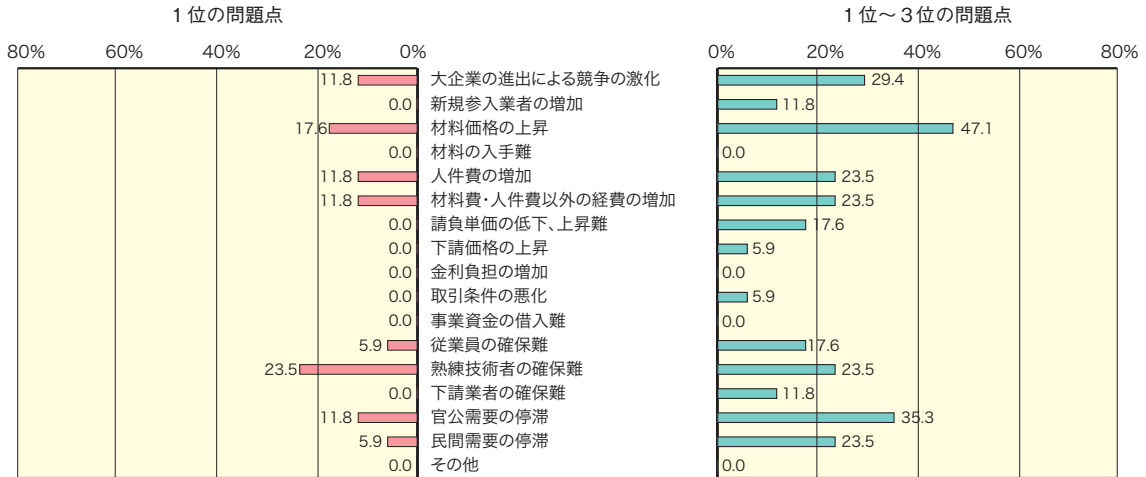


－経営上の問題点－

経営上の問題点の状況 図12

栃木県 建設業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



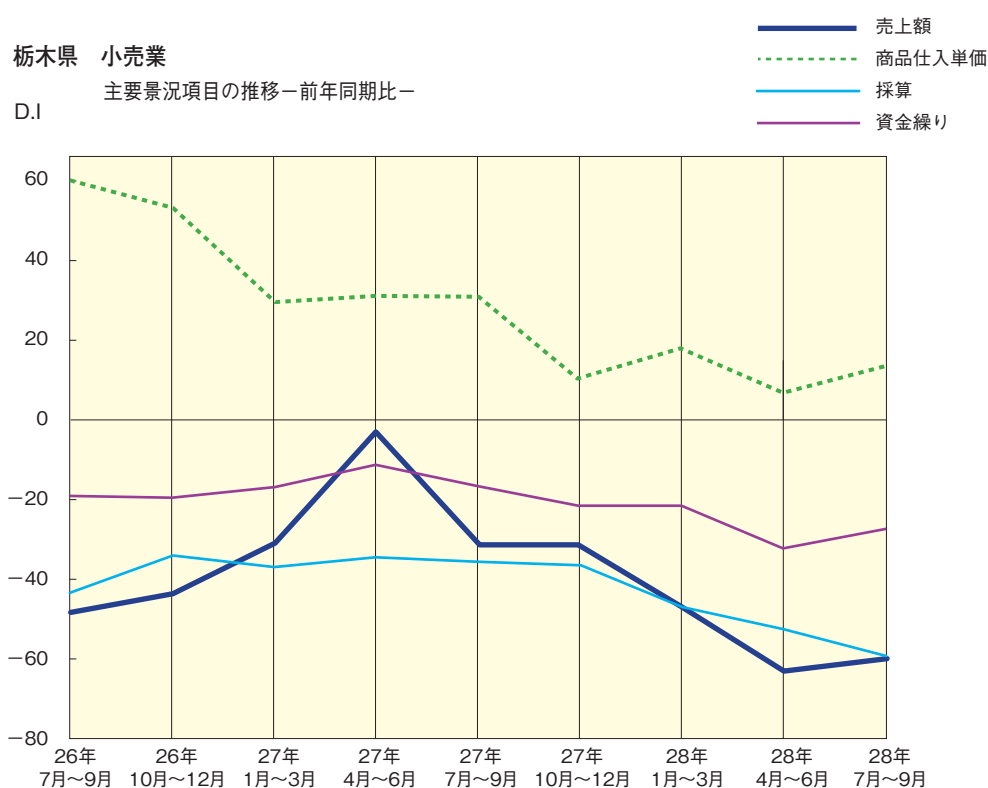
1位の問題点では、「熟練技術者の確保難」(23.5%)が挙げられ、前期(5.3%)より大幅に増加した。次いで、「材料価格の上昇」(17.6%)が挙げられ、「大企業の進出による競争の激化」、「人件費の増加」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「官公需要の停滞」(11.8%)等が挙げられている。1位～3位の問題点では、上記の問題に加え「民間需要の停滞」(23.5%)が高い値で挙げられている。

4. 小売業の景況

－主要景況項目の推移－

「各項目とも悪化傾向で推移するも、来期は小幅ながら回復に転じると予想」

小売業 主要項目の推移（前年同期比）図13



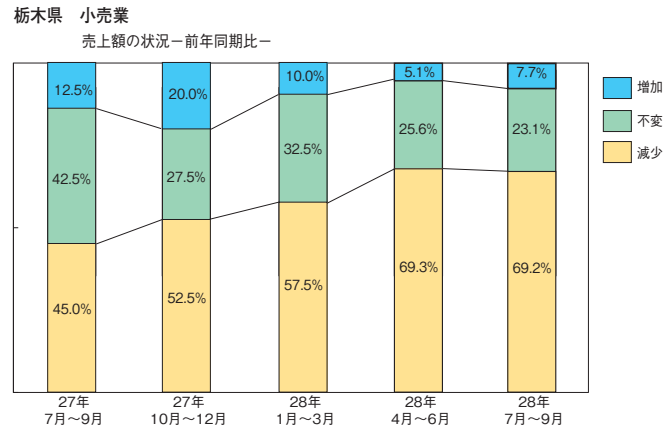
「売上高」が -16.7 ポイント（ -47.5 ポイント→ -64.2 ポイント）の減少、「採算」が -6.4 ポイント（ -47.5 ポイント→ -53.9 ポイント）、「資金繰り」が -10.8 ポイント（ -22.5 ポイント→ -33.3 ポイント）の悪化となった。来期は小幅な回復を予想しているが、依然として低い水準が続くと予想している。

「商品仕入単価」は、前期比 9.9 ポイント（ 17.5 ポイント→ 7.6 ポイント）低下したが、来期は 5.3 ポイントの上昇を予想している。

－売上額－

売上額の状況（前年同期比）図14

今期D I 値の内訳を見ると、売上額が増加したとする企業が5.1%、減少企業が69.3%となった。その為、D I 値は過去5期中最低の-64.2ポイントとなった。

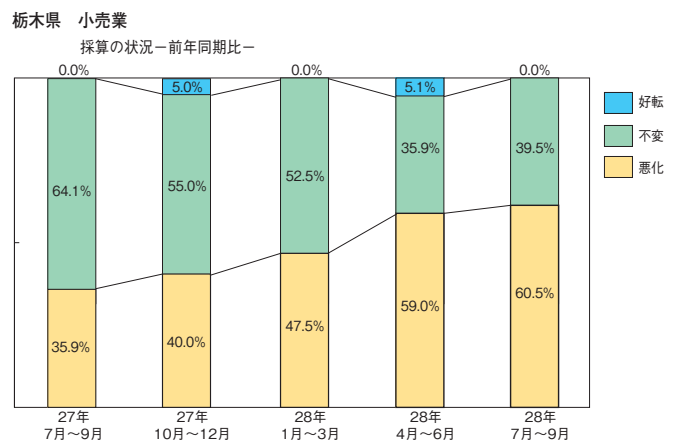


来期の見通しは、売上増加を予想する企業が7.7%に増加するが、減少とした企業が69.2%と横這いなため、D I 値は-61.5ポイントと依然として厳しい状況を予想している。

－採算（経常利益）－

採算（経常利益）の状況（前年同期比）図15

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が5.1%、悪化企業が59.0%で、D I 値は-53.9ポイントと、前期（-47.5ポイント）に比べ6.4ポイントの減少となり依然として厳しい状況にある。



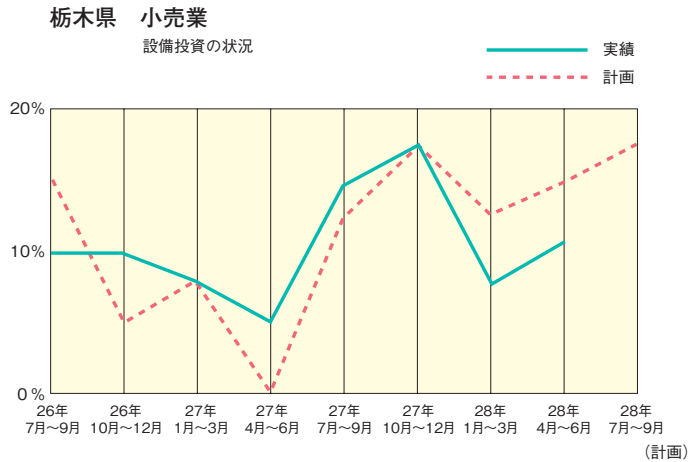
来期の見通しは、好転企業が5.1%減少し、悪化企業が1.5%増加するため、D I 値は今期より厳しい-60.5ポイントを予想している。

—設備投資の状況—

設備投資の状況 図16

今期の設備投資の状況は、計画していた企業15.0%に対し、実績は10.5%と、計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は今期より2.9%（15.0%→17.9%）上回る予想となっている。

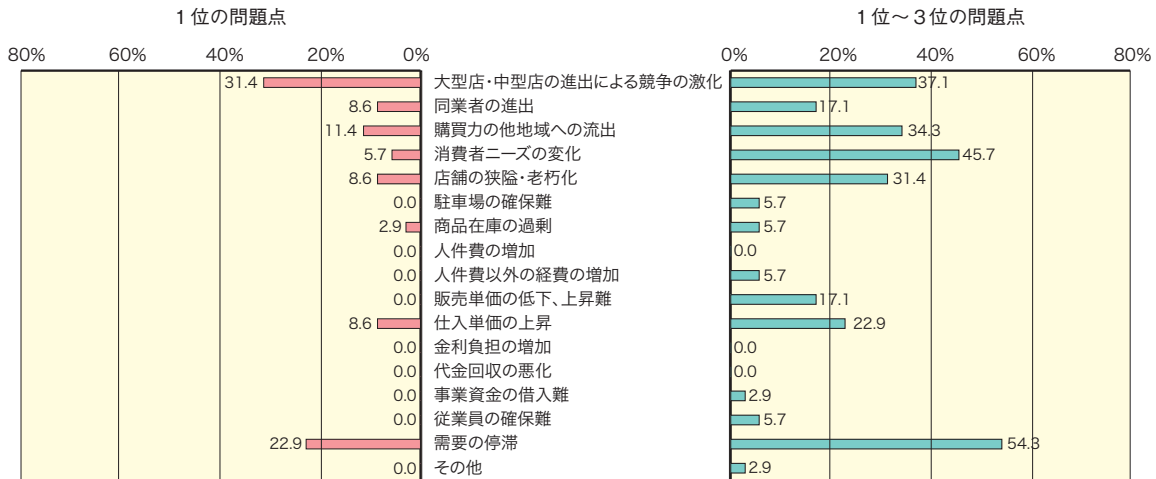


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図17

栃木県 小売業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



1位の問題点では、前期に引続き「大型店・中型店の進出による競争の激化」（31.4%）、「需要の停滞」（22.9%）、「購買力の他地域への流出」（11.4%）等が挙げられている。

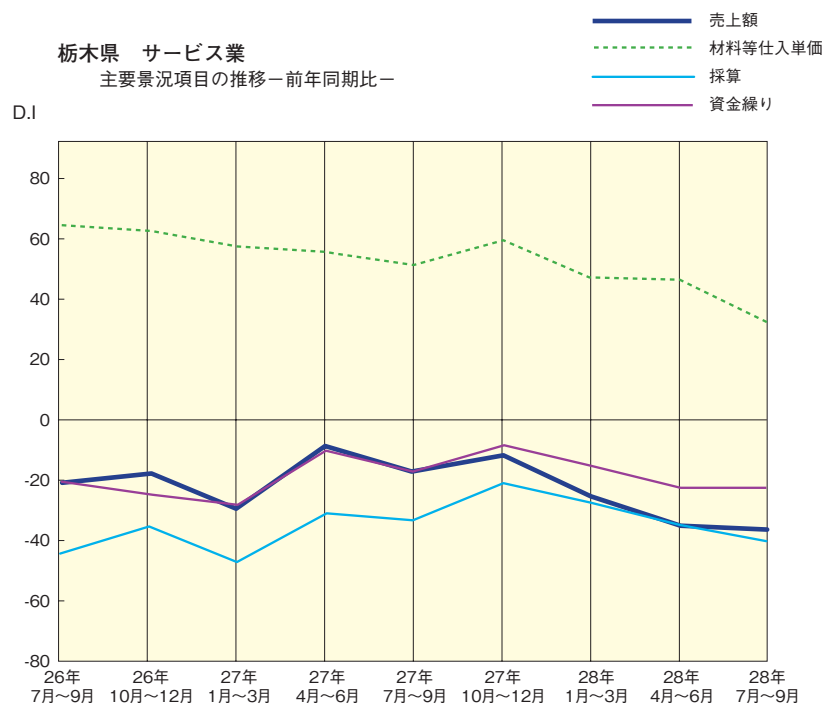
1位～3位の問題点では、上記の問題に加え「消費者ニーズの変化」（45.7%）、「店舗の狭隘・老朽化」（31.4%）が挙げられている。

5. サービス業の景況

—主要景況項目の推移—

「売上額が大幅減少、来期も採算の悪化を予想」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比）図18



「採算」の今期のD I 値は、前期と比べ6.3ポイント（-27.6ポイント→-33.9ポイント）の悪化となった。

特に、「売上額」が前期比-9.6%（-25.5%→-35.1%）減少し、「資金繰り」も-8.1ポイント（-15.2ポイント→-23.3ポイント）悪化した。

「材料等仕入単価」については、高い水準が続いている。

来期は、「売上額」、「資金繰り」については横這いを予想し、「採算」は5.1ポイント（-33.9ポイント→-39.0ポイント）の悪化を予想するなど、依然厳しい状況が予想される。

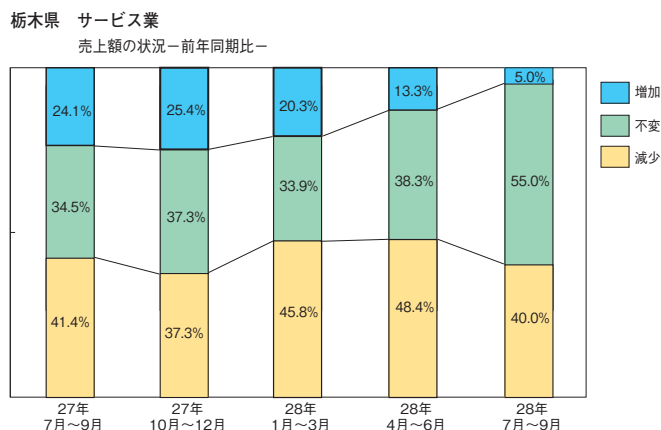
また、「材料等仕入単価」は14.7ポイント（47.4ポイント→32.7ポイント）低下と大幅な改善を予想している。

—売上額(収入高)—

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期売上額のD I 値の内訳を見ると、増加企業が13.3%と前期に比べ減少し、減少企業が48.4%に増加した為、D I 値は35.1ポイントとなり、前期より9.6ポイント(−25.5ポイント→−35.1ポイント)悪化した。

来期の見通しについては、増加を予想する企業が5.0%に減少し、減少を予想する企業が40.0%のため、D I 値は−35.0ポイントと、横這いを予想している。

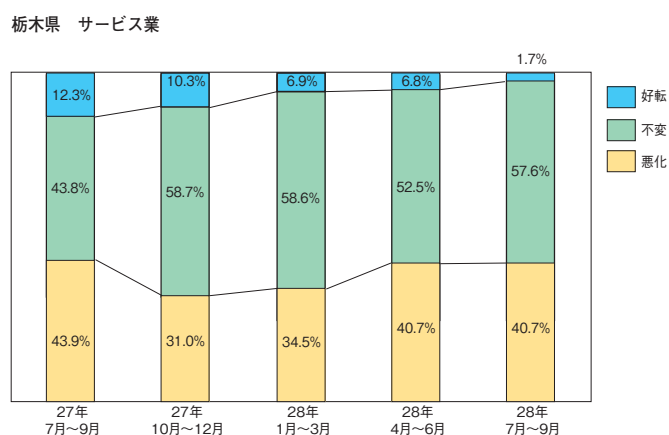


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が6.8%、悪化企業が40.7%であることから、D I 値は−33.9ポイントとなり、前期に比べ6.3ポイント悪化した。

来期の見通しは、好転を予想する企業が1.7%とさらに減少するため、D I 値は−39.0ポイントと、さらに悪化する予想となった。

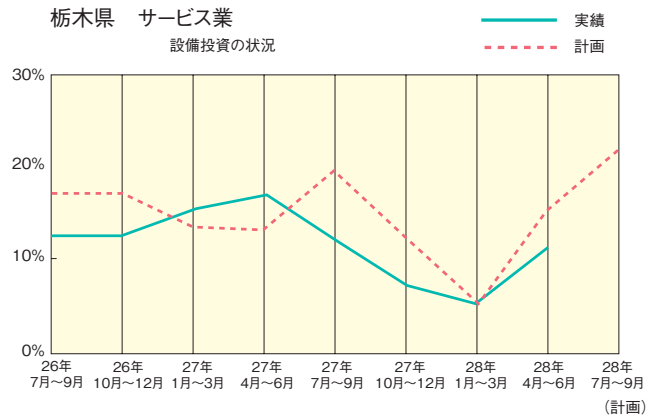


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図21

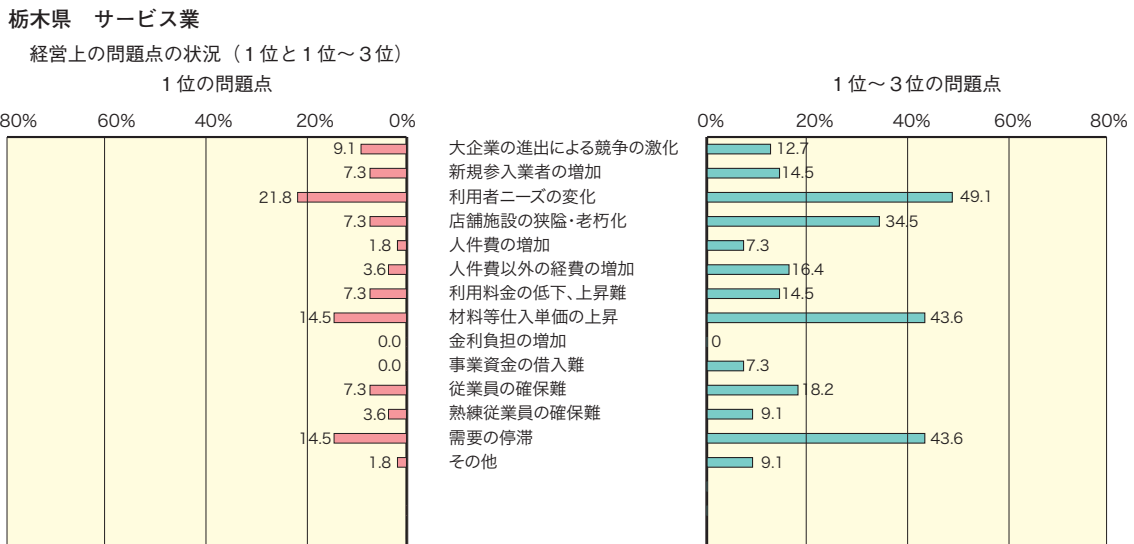
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合15.3%に対し、実施企業は11.9%となり、計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業が21.7%と、前期に比べ6.4%の増加を予想している。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図22



1位の問題点では、「利用者ニーズの変化」(21.8%)がトップに挙げられ、次いで「材料等仕入単価の上昇」、「需要の停滞」が共に14.5%となり、前期と同じ問題が挙げられている。1位~3位の問題点でも「利用者ニーズの変化」が49.1%、「材料等仕入単価の上昇」、「需要の停滞」が43.6%となり、1位の問題点と同じ項目が挙げられている。

6. 調査対象事業所の内容

〈製造業〉

業種別内訳 30事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	3	10.0
飲料・資料・たばこ製造業	1	3.3
繊維工業	2	6.6
印刷・同関連業	2	6.6
化学工業	1	3.3
プラスチック製品製造業	1	3.3
鉄鋼業	2	6.6
非鉄鋼業	2	6.6
金属製品製造業	3	10.0
はん用機械器具製造業	1	3.3
生産用機械器具製造業	3	10.0
業務用機械器具製造業	1	3.3
電気機械器具製造業	1	3.3
情報通信機械器具製造業	1	3.3
輸送用機械器具製造業	2	6.6
その他の製造業	4	13.3

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	33.3
3人以上～5人以下	4	13.3
6人以上～10人以下	7	23.3
11人以上～20人以下	6	20.0
21人以上～50人以下	3	10.0
51人以上～100人以下	0	0.0
101人以上	0	0.0

〈建設業〉

業種別内訳 20事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	8	40.0
職別工事業	10	50.0
設備工事業	2	10.0

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	50.0
3人以上～5人以下	7	35.0
6人以上～10人以下	1	5.0
11人以上～20人以下	1	5.0
21人以上～50人以下	1	5.0
51人以上～100人以下	0	0.0
100人以上	0	0.0

〈小売業〉

業種別内訳 39事業所

業種	事業所数	割合%
織物・衣服・身の回り品小売業	6	15.3
飲食料品小売業	18	46.1
自動車・自転車小売業	2	5.1
その他小売業	13	33.3

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	29	74.3
3人以上～5人以下	8	20.5
6人以上～10人以下	1	2.5
11人以上～21人以下	0	0.0
21人以上	0	0.0

〈サービス業〉

業種別内訳 61事業所

業種	事業所数	割合%
技術サービス業	3	4.9
一般飲食業（一般・遊興）	23	37.7
宿泊業	1	1.6
洗濯・理美容業	20	32.7
自動車整備業	5	8.1
機械等修理業	1	1.6
その他サービス業	8	13.1

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	38	62.2
3人以上～5人以下	13	21.3
6人以上～10人以下	7	11.4
11人以上～21人以下	2	3.2
21人以上	1	1.6

第 1 4 8 回中小企業景況調査報告書

平成 2 8 年 4 月～ 6 月期報告

平成 2 8 年 7 月～ 9 月期予想

編集：栃木県商工会連合会 顔晴る企業応援課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央 3 丁目 1 番 4 号

TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875

印刷所：(株)松井ピ・テ・オ・印刷
